福島原発事故から15年　被害は終わったのか
― これからのエネルギーと社会を考える

2026
10/21（水）
12:30–14:10

開催場所
宇都宮大学
峰キャンパス
4B33教室

事前申込不要

青木氏近著

講師
青木 美希 氏

ジャーナリスト・作家
北海タイムス、北海道新聞、全国紙で記者として計23年。東日本大震災発生翌日から被災地を取材し、現在もフリージャーナリストとして東京を拠点に福島第一原発事故と避難者の取材を継続。北海道警察裏金問題の取材班として菊池寛賞。「プロメテウスの罠」「手抜き除染」の各取材班で新聞協会賞を計3回受賞。『地図から消される街』で貧困ジャーナリズム大賞、日本医学ジャーナリスト協会賞特別賞などを受賞。『なぜ日本は原発を止められないのか？』および一連の活動で2025年ジャーナリズムX賞（大賞）。近著『それでも日本に原発は必要なのか？―潰される再生可能エネルギー―』（文春新書、2026年）。

コメント
清水 奈名子
宇都宮大学 国際学部教授

福島第一原発事故から15年。事故の記憶が薄れつつある一方で、今も避難を続ける方々がおり、生活再建や支援をめぐる課題は続いています。本フォーラムでは、長年にわたり現場を取材してきたジャーナリストの青木美希氏をお招きし、避難者の声や取材映像を通して、福島の「いま」を見つめます。
そして、原発をめぐる議論が改めて動くいま、事故の経験から、これからのエネルギーと社会をどう考えるのか。清水奈名子教授によるコメントも交えながら、なぜ被害が続いているのか、これからどのようなエネルギーと社会を選んでいくのか、ともに考えます。

主催：宇都宮大学 国際学部附属 多文化公共圏センター
福島原発震災に関する記録フォーラム （共同世話役：清水奈名子・髙橋若菜）
問合せ：国立大学法人宇都宮大学 国際学部附属多文化公共圏センター／髙橋若菜研究室
tabunka-c@a.utsunomiya-u.ac.jp　TEL 028-649-5228